

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 3 日現在

機関番号：12606

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23760603

研究課題名(和文) 17世紀ヴェネツィアにおける公衆オペラ劇場誕生の経緯とその実態

研究課題名(英文) Study on the construction of the first opera theater in Venice in the 17th century

研究代表者

青木 香代子 (Aoki, Kayoko)

東京藝術大学・大学院美術研究科・研究員

研究者番号：00597065

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1637年のヴェネツィアにおける最初のオペラ劇場テアトロ・サン・カッシアーノ建設の経緯とその延長線上に現象化された17世紀ヴェネツィアにおけるオペラ劇場の変容の実態を、当時の社会的・文化的背景から分析した。

その結果、テアトロ・サン・カッシアーノの開場は、その前年にパドヴァで行われた「エルミオーナ」上演と深い関係があることが明らかになった。また、その後、17世紀のヴェネツィアにみられる劇場の発展・変容には、ヴェネツィア共和国政府とグリマーニ家による介入があったことを明確化した。

研究成果の概要(英文)：In this study, the story behind the building of the first opera theater “Teatro San Cassiano” in Venice in 1637 and changes the theater experienced thereafter were analyzed based on social and cultural factors at the time.

As a result, it has been learned that the opening of the first theater had deep relations with a play staged the previous year in Padua, and there were governmental interventions in the background of the development and changes of theaters in Venice in the 17th century.

研究分野：建築史・意匠

キーワード：イタリア 建築史 都市史 劇場

1. 研究開始当初の背景

イタリア他都市の劇場研究に比べて長い間立ち遅れていたヴェネツィアの劇場に関する研究は 1970 年代になってようやく進展をみる。1971 年に開催されたヴェネツィア・ビエンナーレ国際演劇祭の折に編纂されたカタログ”*I teatri pubblici di Venezia, secoli XVII-XVII, Venezia, 1971*”は、広範な一時史料をもとにした研究で、建築学的視点からの最初のヴェネツィア劇場史研究であるといえる。この研究を基に個々の劇場についてより詳細に記した研究として、N. マンジーニによる”*I teatri di Venezia, Venezia, 1974*”がある。しかしながら、いずれにおいても比較的史料が多く残る 17 世紀後半から 18 世紀にかけての劇場が研究の中心となっていた。

その後は近年に至るまでヴェネツィアの劇場に関する研究はほとんど進展せず、また、長い間劇場ごとのモノグラフィーさえ存在しなかった。そうした中、1990 年代に F. マンチーニ、M. T. ムラーノ、E. ポヴォレードにより、ヴェネト地方の劇場を対象にした一連の研究がまとめられた。その皮切りに出版されたヴェネツィア編は、先行研究では史料的制約により扱われていない仮説劇場や存続期間のきわめて短かった劇場を数多く取り上げている点で高く評価できる。しかしながら、個々の劇場の機能面を含めた実態を明確化する段階には至っていない。

このように、ヴェネツィアの劇場というテーマについては、1970 年代以降に関心が注がれてきたが、現存する図面や絵画のみならず、その形態を直接伝える文書等が極めて少ないため、直ちに建築学的アプローチを行うのは困難であるというのが研究者たちの共通の見解であった。

2. 研究の目的

この状況下において、本研究では既往の

研究で積極的に扱われてこなかった 1637 年の世界最初の公衆オペラ劇場テアトロ・サン・カッシアーノ開場の経緯・実態とその延長線上に現象化された 17 世紀ヴェネツィアにおけるオペラ劇場の変容の実態を解明することを目的とする。これによって、ルネサンス期には為政者やその招待客を対象とする閉ざされたものであった劇場やそこでの上演が、ヴェネツィアを舞台に商業化・大衆化し、イタリア半島内の他地域、さらにアルプス以北へも伝播し受容されていく様態を明らかにすることができると思われる。さらに、ヴェネツィアにおける公衆オペラ劇場の誕生を、特異な都市にみられる例外的な事例としてとらえるのではなく、イタリア劇場史における重要な転換点であると位置づける本研究によって、これまで都市ごとに論じられることが多かったイタリア劇場史を、より大きな視点から横断的にとらえることを目的とする。

3. 研究の方法

まず、研究の基盤となる時代背景を一次史料の調査によって実証的に明らかにし、1637 年に最初の公衆オペラ劇場テアトロ・サン・カッシアーノが建設された社会的・文化的要因を解明した。次に、ヴェネツィアと当時の従属都市において 1637 年以前に行われたオペラ上演とその空間について調査し、のちのヴェネツィアにおける公衆オペラ劇場の誕生との関係性について明らかにした。さらに、1678 年のテアトロ・サン・ジョヴァンニ・グリソストモの建設以後、ヴェネツィアでは 77 年もの間新しい劇場の建設がみられないことから対象年代を 1670 年代までに絞り、その間に建設された劇場各々の特色と相互の関係性について一時史料の調査をもとに明らかにした。

主な史料の入手先は、ヴェネツィア国立古文書館、国立マルチャーナ図書館、ゴル

ドーニの家美術館付属資料館、コッレール博物館付属図書室、ヴェネツィア建築大学図書館、パドヴァ大学人文学部史学科図書館である。

4. 研究成果

本研究によって以下の3点を明らかにすることができた。

(1) 1637年に最初の公衆オペラ劇場としてヴェネツィアに建設されたテアトロ・サン・カッシアーノでの上演と、その前年にパドヴァのプラート・デッラ・ヴァッレ近くで行われた「エルミオーナ」の上演に深い関係があることが次の2点から明らかになった。

1636年4月の「エルミオーナ」上演の際には、全5段設けられた観客席のうち2段目がヴェネツィア貴族専用席で、テアトロ・サン・カッシアーノの所有者であるトロン家のメンバーも観劇に訪れた。そして、その後間もなく劇場建設の申請をおこない、約1ヶ月後に十人委員会よりその許可が与えられている。

テアトロ・サン・カッシアーノと「エルミオーナ」上演の舞台装置は共にアルフォンソ・ケンダが担っている。さらにはマッダレーナ・マネッリ、アンセルモ・マルコーニ、ジローラモ・メディチ、フェリチタ・ウーガなど多くの役者が上記の2上演に共通して関わっている。

(2) 1628年に制定された規則からはヴェネツィア政府が、劇場での上演内容、日数、制作費、役者、劇場の設備・構造にいたるまで監視の目を光らせていたことが明らかである。また、ボックス席の賃貸に関する史料からは、一部のボックス席を他都市の要人に貸出すことで、劇場を政府による外交活動の場として利用していた可能性があることを明らかにした。以上のことから17世紀ヴェネツィアで相次いで建設さ

れたオペラ劇場はそのほとんどが貴族個人の出資によって建設・運営されたものであるが、政府が一括して管理していたことが明らかである。

(3) 17世紀ヴェネツィアで建設された劇場のうち、3つがサンタ・マリア・フォルモーザ地区のグリマーニ家の所有する劇場であった。グリマーニ家は1636年のパドヴァにおける「エルミオーナ」上演に役者として出演したアントニオを輩出しただけでなく、16・17世紀にかけて政治・宗教・文化のいずれの面においてもヴェネツィアで最も影響力をもつ家族のひとつといえる。彼らは、自らが所有する3つの劇場の経営にあたり、競合する他の劇場の追い落としを謀りながら17世紀ヴェネツィアにおけるオペラ上演と劇場経営の独占を試みたことが一連の資料調査より明らかである。また、こうしたグリマーニ家の劇場経営と他劇場への介入の結果として、ヴェネツィアにおけるオペラ上演と劇場の変質があったということを解明した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

青木 香代子, 「近世ヴェネツィアにおける劇場の商業化」, 都市史小委員会 2012年度シンポジウム梗概集『都市史研究の最前線』, 建築歴史・意匠委員会, 日本建築学会編, 2012年12月, 3-8頁

青木 香代子, 「近世ヴェネツィアにおける劇場建築の誕生ならびに発展と変容」, 地中海学会月報 362号, 2013年9月

青木 香代子, 「近世ヴェネツィアにみ

る社会的危機とサン・マルコ広場における建築的介入」日本建築学会都市史小委員会, 危機に際しての都市の衰退と再生に関する国際比較 [若手奨励] 特別研究委員会報告書, 2015 年 3 月, 105-110 頁

[学会発表] (計 2 件)

青木 香代子, 「近世ヴェネツィアにおける劇場の商業化」, 日本建築学会都市史小委員会シンポジウム: 都市史研究の最前線「都市と表象」シリーズ, 第 3 回『消費と生産』, 2012 年 12 月, 日本建築学会会館

青木 香代子, 「近世ヴェネツィアにおける劇場建築の誕生ならびに発展と変容」, 地中海学会研究会, 2013 年 4 月, 國學院大學

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

青木 香代子 (AOKI Kayoko)
東京芸術大学・大学院美術研究科・研究員
研究者番号: 0 0 5 9 7 0 6 5

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし